

授業概要

本講義では、明治の代表的啓蒙思想家であった福沢諭吉の『学問のすゝめ』を読んでいく。福沢は国民に批判精神の意義を訴えつつ、国家の独立にとって国民の自立性が不可欠であるとの立場から、学問の重要性を説いた。こうした福沢の思想は、深い洞察力と主体的な判断力が求められる今日のわれわれにとっても、極めて示唆に富んだものといえよう。授業ではテキストの精読を通して、知識と教養を備えた人間の生き方について考えることに力点を置きながら講義する。

なお、この講義は文語体の文章に読み慣れることをも意図しているので、授業においては受講生に音読してもらった上で、解説を加えていくスタイルをとることとする。

授業計画

第 1 回	授業の進め方の説明
第 2 回	初編① 天賦人権と学問の必要
第 3 回	初編② 自由と独立
第 4 回	初編③ 国民の責任
第 5 回	第二編① 学問と生活
第 6 回	第二編② 基本的人権の平等
第 7 回	第二編③ 順法の精神
第 8 回	第八編① 身心自由の権利
第 9 回	第八編② 男尊女卑の悪習
第 10 回	第八編③ 家父長専制の理不尽
第 11 回	第十三編① 怨望以外には絶対の不徳なし
第 12 回	第十三編② 怨望の原因は窮の一事なり
第 13 回	第十三編③ 禍福譏誉をみな自力にて取らしむべし
第 14 回	第十七編① 信用こそ人生の第一義
第 15 回	第十七編② 虚飾は交際の本色にあらず
第 16 回	筆記試験

到達目標

- (1) 福沢の思想から、人間として身につけるべき精神を学び取ること。
- (2) 自分で意味調べをしながら、文章を読む習慣を身につけること。

履修上の注意

- (1) 「講読」の授業なので、じっくり腰を据えて文章を読む意志のある学生を対象とする。
- (2) 遅刻 3 回で欠席 1 回と見なす。

予習・復習

- (1) わからない言葉の意味や読み方を辞典などで調べながら、授業で取り上げるテキストの箇所を毎回必ず事前に読んで予習すること。
- (2) 授業で読んだ箇所は、内容をしっかりと把握するためにも、読み返すなどの復習を行うこと。

評価方法

- (1) 受講態度（特に予習不足の場合は「減点」の対象とする） 70%
- (2) 学期末試験〔論述形式〕 30%

テキスト

- 教科書名：『学問のすゝめ』
- 著者名：福沢 諭吉
- 出版社名：講談社学術文庫